

豊かな英虞湾の再生に向けて

干潟の再生が豊かな英虞湾の再生に効果的であることが確認されました。干潟の再生を行うには法令上の手続きや防災面での対応など、様々な準備が必要です。干潟の再生に興味のある方は志摩市農林水産部里海推進室までご相談ください。

干拓等で失われた干潟の再生(海水導入)

水門の開放(石淵)



水門の開放(アクアヴィラ)



地域住民の皆さんと協働した干潟再生活動



環境学習



コアマモ場の再生



アサリの放流



アオサノリ養殖網の設置



※ 当パンフレットの作成には三重県水産研究所及び志摩市より提供いただいた写真・データを使用しています。

詳しい情報は「新しい里海のまち・志摩」ホームページを御覧ください。 <http://www.satoumi-shima.jp/>

干潟再生に関する問い合わせ先

志摩市農林水産部里海推進室 0599-44-0206

伊勢志摩国立公園に関する問い合わせ先

環境省中部地方環境事務所 志摩自然保護官事務所 0599-43-2210



地球のいのち、つなぐ。つなぐ。つなぐ。
生物多様性

2014.3製作

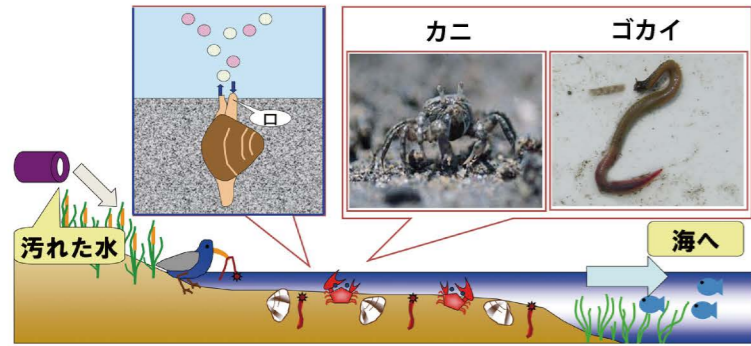
豊かな英虞湾をつくる干潟再生の取組



豊かな英虞湾をつくる干潟再生の取組

干潟のはたらき

干潮になったときに海底が現れるような、陸に近い浅い海域を干潟といいます。干潟にはさまざまな生き物が暮らしていて、ゴカイやカニは海底の有機物を食べたり、アサリなどの二枚貝は植物プランクトンなどを食べたりして、海を浄化してくれる大切な働きがあります。1ヘクタールの干潟には、約100人分の生活排水に含まれる有機物をきれいにする力があるといわれています。



干潟の変化



■ 現存する干潟: 84ha ■ 消失した干潟: 185ha

英虞湾では、複雑に入り組んだ入り江の一つひとつに小さな干潟がありました。江戸時代から多くの干潟が埋め立てられて農地や宅地となっています。

干潟再生の目的

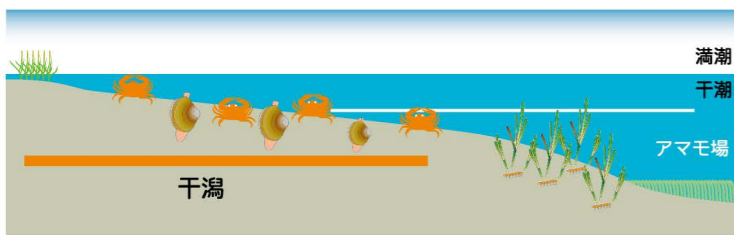
一旦埋め立てられてしまった干潟ですが、最近の調査でまったく利用されていない場所がたくさんあることがわかってきました。こうした場所にある堤防の水門を開け、堤防内に海水を入れることで効率よく干潟を再生し、たくさんの生き物がすみ、豊かで浄化能力の高い英虞湾にすることが目的です。

地域結集型共同研究事業「英虞湾再生プロジェクト」の成果

企業・行政・研究機関・漁業者が連携した「英虞湾再生プロジェクト」において、平成15年から遊休地に海水を導入して、その効果や影響を調べた結果、生物多様性が高くなり、環境や漁業に好影響を与えることが期待されました。

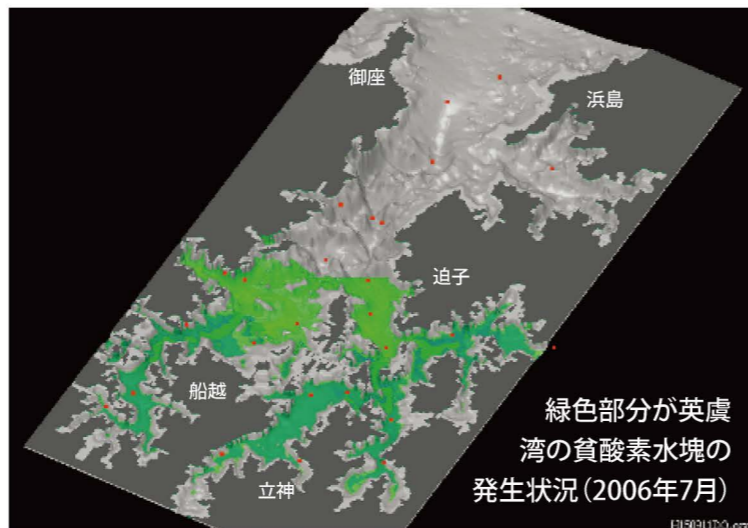
干潟再生の流れ

● 昔の干潟

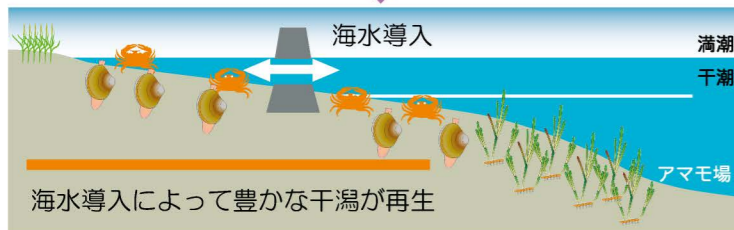


生活排水や真珠養殖の影響により、英虞湾が持っている生き物の浄化能力を超えた有機物が海底にたまることで酸素の欠乏や赤潮が起こり、真珠養殖などに大きな被害が発生しています。干潟の生き物が有機物やプランクトンを食べることで、海底にたまる量を減らす効果があることがわかっています。

● 現在の干潟

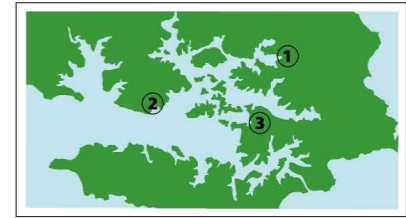


● 将来の干潟



干潟再生の事例

現在、英虞湾の3か所で干潟の再生が行われています。



① 石淵
平成22年4月に水門を開放。
面積: 約2ha (阿児町立神)



② 合歡の郷ホテル&リゾート丹生の池
平成24年8月に水門を開放。
面積: 約2ha (浜島町迫子)

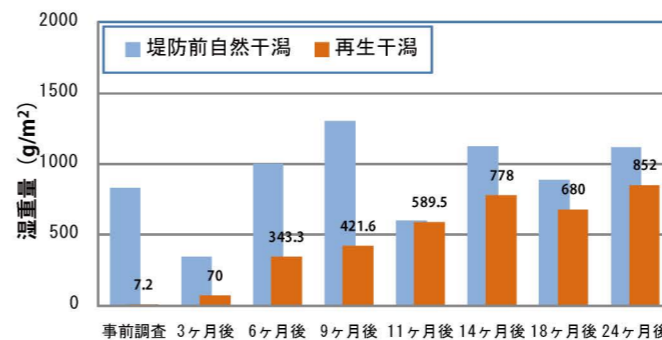
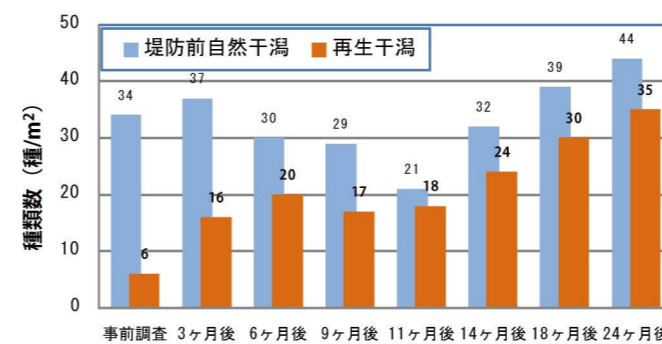


③ ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩
平成24年9月に水門を開放。
面積: 約1ha (大王町船越)



再生干潟の変化

阿児町立神の石淵では、汚れた汽水域にすむユスリカなど6種類の生き物しかいませんでしたが、水門を開けて海水を入れてから6か月後にはボラやハゼなどの魚や巻貝やカニの仲間など20種類の生き物が見られるようになり、18か月後には30種類まで増えるなど、たくさんの生き物が戻りました。こうした生き物が有機物を食べてくれることで、浄化能力が高く、豊かな英虞湾の再生につながります。あなたは何種類見つけることができるでしょう？



ハゼの稚魚
Goby

スズキの稚魚
Lateolabrax japonicus

ボラの稚魚
Mugil cephalus



アサリ
Ruditapes philippinarum

イボウミニナ
Batillaria zonalis

ケフサイソガニ
Hemigrapsus penicillatus

生息する生物が増加していることは干潟や水質の環境が改善しつつあることを示しています。